

【高等学校の部】最優秀賞（大分県教育の日推進会議会長賞）

数学から分かったこと

学校法人扇城学園東九州龍谷高等学校 3年

不動加奈子

私は高1の冬、あることを決意した。それは大の苦手教科数学の克服である。

小1の時から大の苦手で大嫌い。居残りで泣きながら、授業中に解けなかった算数の問題を頭を抱えながら解いたのは私のトラウマの一つである。高1の時点でも、ほとんどといっていいほど中学数学ができていなかった。ではなぜ、そんな私がこれを始めようとしたのか。理由はただ1つ、ふるさと恋しさである。実はわたしの通っている学校は私の住んでいる地域から遠い。そのことも分かったうえでこの東九州龍谷高等学校に魅力を感じて進学したものの、すごく寂しい。同学年に私と同じ中学出身の人が1人もおらず中学の先生やクラスメートが恋しかった。まだ忘れられずにいたがため、いつの日か数学に関わる職について、同窓会であんなに数学が苦手だったあの人!?と驚かそうと思った。

まず、あの時の私が始めたことは数学検定の受検である。とにかくがむしゃらで中学3年間分の数学を取り戻そうとした。この勉強で使ったたった1冊の参考書は、蛍光ペンでのアンダーライン、間違った問題にシャーペンで印をつける、気になった問題のあるページの角を折る、ともう受検当日にはボロボロになった。とてもじゃないけど古本屋に持っていけないくらいに。それくらい勉強して受検当日も力を脳みそから絞り出して解いた。それから数か月後、結果が届いた。結果は不合格。点数が1点ほど足りなかったらしい。

それから何回かチャレンジしてはみるけど、毎回ほんの数点足りず落ちていた。これを読んだみなさんも、きっとこの時の私のようにこう思っただろう。失敗だなと。

もう私に数学なんて何年かけたって無理なんだと完全に諦めていた。しかし、この考えに至るには少しだけ矛盾することがあったのだ。それは今授業でしている高校数学には十分ついていけていることだ。それに加えてノーヒントで応用が解けるのだ。そしてこれだけではない。テストなどでどんなに難しい問題が出て、今までの私ならひるんで逃げていたが、今の私はひるむどころか、動揺せず、むしろその問題に対して面白がって立ち向かっていること。

このことから私はあることに気付いた。数検で結果が出なくても、自分の中では確かに変化しているのだということに。

孔子の名言にこんな言葉がある。

「止まりさえしなければ、どんなにゆっくりでも進めばよい。」

最近のダイエット本を見ると「短期間で大きく痩せられる」というのを売り文句にしているものが多い。確かにすぐ結果が出るにいいに越したことはない。しかし、出ないからといって諦める必要はない。実は自分で気づいていないだけで自分の中で変化は確かに起きているのだ。

諦めずに取り組んでついて来るのは実は結果だけではない。結果を含んでのメリット全般がついてくるのだ。私は諦めずに数学に立ち向かうことで、テストの結果以外に何事にも冷静に対処する力が身についた。そして、頭が冴えだし、様々なことで大きな結果を残した。継続は苦しいものかもしれない。すぐに結果がでないと嫌かもしれない。しかし、継続する姿ほどかっこいい姿はない。そのかっこいい姿に惹かれ、メリットも運もなにもかもがついてくるのだ。